

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年11月18日 NO.59

花ちゃん 「ねえ、10月の全校朝会で校長先生が『鳥のいろいろな足』についてお話ししてくれたでしょ。オー君おぼえている？」

オー君 「もちろんさ。鳥は生活する場所（ばしょ）によって、足の形がちがうんだよね。あれ？ところで、生活するってどういうことかな。花ちゃん、分かる。」

花ちゃん 「生活？生活って何だろう。国語辞典（じてん）で調（しら）べてみようか。えーと、生活、生活、 あった！『生活・・・生きて活動（かつどう）すること。食べたり、ねむったり、いきていくこと』と書いてあるわ。」

オー君 「生きて活動することというのは、住（す）んでいる場所ということだから、足のちがいということだ。それから・・・食べること・・・分かった！なぞはすべてとけた！」

花ちゃん 「何が分かったの。私にも教（おし）えて！」

オー君 「おいらの考えが正しいければ…そうだ。鳥の図鑑（ずかん）を見るぞ！」

ということで、オー君は図鑑を見に図書室にすっとなで行ったとき…すると…

オー君 「わしの仲間（なかま）のくちばしを見てごらんよ。鳥やけものの肉をひきさきやすいように、みんな先がまがっているよ。」



花ちゃん 「物（もの）をつりあげるクレーン車ににているわ。」

オー君 「カワラヒワやシメ、イカルなどの鳥は、木の実がすきだろう。それで、固（かた）い木の実をわるためにじょうぶなくちばしが必要なんだ。」

花ちゃん 「そうか。木の実をせんもんに食べる鳥のくちばしはペンチににているわ。何だか、オー君。おもしろくなってきたわ。いろいろ調べてみたら、もっと大発見（だいはっけん）ができるわよ。」



オー君 「コゲラなどのキツツキ類は、木のみきをつつくだろう。だから、これまたじょうぶでとがたくちばしになっているんだ。」

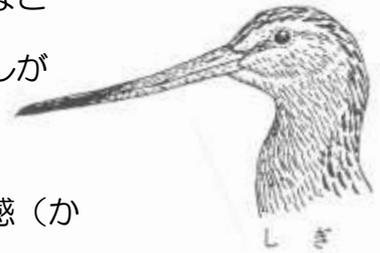


あかげら

花ちゃん 「そうか。木に穴（あな）を開（あ）けて中の虫を食（た）べるんだから、大工（だいく）さんが使う『のみ』のようになっていないとだめなのね。」



オー君 「まだあるぞ。国立にはいない鳥だけど、海の近（ち）かくの浅（あさ）せで、砂（すな）の中の虫などを探（さが）しているシギなどの仲間にくちばしが長いんだ。」



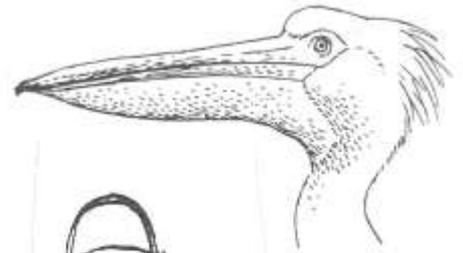
しぎ

花ちゃん 「なるほど。これは、ごはんを食べる時のはしに感（か）んじがにているわね。」

オー君 「ペリカンという鳥もいるぞ。こいつは、特（とく）にくちばしがおもしろいと思ったら、こいつらは、たぶん魚をすくって食べるんじゃないかな。」



花ちゃん 「そうか。くちばしがバケツの役目をしているというわけね。大きなくちばしなら、どんどん、魚もとれるということね。」



ペリカン

オー君 「ヨタカという鳥は飛（と）びながら虫をすいこみやすいように、くちばしができているんだ。」



花ちゃん 「オー君のもっている虫取りあみににているわ。あれ？モンタ博士。いたんですか。何か元気がないみたいですね。どうしたんですか。」



よたか

モンタ博士 「あーあ。モンタ博士がお話しようと思ったことを二人が大発見してしまうんだもん。モンタ博士はひまになっちゃった。そうだ。校長先生にお願いして全校朝会でお話してもらおう。」

